

平成23年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[民事訴訟法]

- (1) Aが、Bに対して貸金返還請求権を有し、CはBのその債務について連帯保証人となったと主張して、BとCとを共同被告として、Bに対しては貸金返還請求の訴えを、Cに対しては保証債務履行請求の訴えを提起した。

BとCが、それぞれAの訴状を受領したところ、Bは、第1回口頭弁論期日に出頭した上で、請求棄却を求めAの主張する請求原因を否認するつもりであるが、C本人は出頭しないつもりである。第1回口頭弁論期日にBが出頭してC本人は出頭しないことを前提に、CがAの請求を争うことができる制度としてどのようなものがあるか。

- (2) 文書提出命令に従わない場合の効果について説明せよ。

【100点】